■（７６）被災地の桜から作文のコツが見える

東京では桜が一気に花を開いている。平年よりはかなり遅い。これをどう表現するか。「入学式シーズンに合わせて咲いてうれしい」なのか「先週の桜祭りに間に合わなくて残念」なのか。同じ桜の花を見ても、立場が違えば、見方は大きく変わることになる。

「記事＝事実を伝える」と一般的には受け止められている。が、厳密に言えば、同じ事象を取材しても、各記者やデスク、編集者の視点で評価の違いは生まれる。前向きに評価するのかどうか。大きなニュースと受け止めるのかどうか。それによって、記事の大きさも変わってくる。新聞社によって記事としての扱いが異なるケースが出てくる。

例えて言えば、円錐の模型の影は、真上から見れば円で、真横から見れば三角形になるようなものだ。子どもたちの作文も同じだろう。同じテーマでも、どういう視点を持つかが中身を大きく左右していく。鉛筆を動かす前に、自らの立ち位置を定めるのが重要だ。

震災被災地では、津波到達ラインに桜の木を植える運動が展開されている。将来、「きれいな並木」と受け止めるのか、「教訓を忘れない」と考えるか。視点が問われる（山）